

老健しずおか

静岡県老人保健施設協会機関誌
ROUKEN SHIZUOKA

第23号

TOPIC 1

診療報酬/介護報酬同時改定 評価・ポイント

においての

TOPIC 2

職員研究発表会

TOPIC 3

第29回全国老人保健施設大会 in 埼玉



御前崎灯台★

部会報告

看護・介護部会 / リハビリ部会
通所リハビリ部会 / 防災部会
栄養部会 / 支援相談員部会

◎会員施設紹介

介護老人保健施設の 理念と役割

【理念】

介護老人保健施設は、利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、
生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助します。
また、家族や地域の人びと・期間と協力し、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援します。

【5つの役割と機能】

I 包括的ケアサービス施設

利用者の意思を尊重し、望ましい在宅または施設生活が過ごせるようチームで支援します。
そのため、利用者に応じた目標と支援計画を立て、必要な医療、看護や介護、リハビリテーションを提供します。

II リハビリテーション施設

体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、
集中的な維持期リハビリテーションを行います。

III 在宅復帰施設

脳卒中、廃用症候群、認知症等による個々の状態像に応じて、他職種からなるチームケアを行い、
早期の在宅復帰に努めます。

IV 在宅生活支援施設

自立した在宅生活が継続できるよう、介護予防に努め、入所や通所・訪問リハビリテーションなどのサービス
を提供するとともに、他サービス機関と連携して総合的に支援し、家族の介護負担の軽減に努めます。

V 地域に根ざした施設

家族や地域住民と交流し情報提供を行い、さまざまなケアの相談に対応します。
市町村自治体や各種事業者、保健・医療・福祉機関などと連携し、地域と一体となったケアを積極的に担います。
また、評価・情報公開を積極的に行い、サービスの向上に努めます。

静岡県老人保健施設協会

医療法人社団 和恵会 内

〒432-8061 静岡県浜松市西区入野町6417

TEL.053-440-1200 FAX.053-440-1201

www.rouken-shizuoka.jp





ご挨拶

静岡県健康福祉部福祉長寿局

福祉指導課長 黒岩 康



ご挨拶

静岡県老人保健施設協会

会長 猿原 孝行

日頃、静岡県老人保健施設協会の運営に関し多大なご厚誼を頂きこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、我が国は深刻な人口減の社会に突入しており人口減はますます進むと伝えられています。そして私どもの職場は多くの人手を必要としています。地域により少子化の影響を受けその人手がその地域で確保できない現場が増えていると思います。片方では高齢化の波を受けて介護が必要な高齢者が増えているのも事実です。

そのことは各種統計に表れています。2018年の就業者数は6580万人でしたがこの数が2025年には6350万人程度になり、さらに2040年には5650万人程度になると推計(2018年4月12日第4回経済財政諮問会議資料より抜粋)されていることからわかります。

一方、医療・福祉分野で働く人数は2018年では823万人でしたが、2025年には930万人程度必要になり2040年には1060万人必要(同資料より抜粋)と試算されています。人手不足の根本原因はこの辺りにあるので老健一事業所が奮闘しても解決しません。追い打ちをかけるように「介護」は大変という思いが強く介護職を目指す若者も減っているように聞かれます。まさに老健をはじめとする介護保険の事業所は四面楚歌の状態に陥つ

日頃、貴会及び貴会会員の皆様には、本県の高齢者保健福祉の推進に御尽力をいただき、厚くお礼申し上げます。

急速な少子高齢化の進行により、平成30年4月1日現在、静岡県の高齢化率は28.7%に達し、そのほぼ半数を75歳以上の後期高齢者が占めています。全国的にも総人口が減少する一方、高齢者人口は増加していき、団塊の世代が後期高齢者となる2025年には、およそ3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上に達すると推計されています。

このような状況の中で、国、県及び市町においては、2025年を目前に、介護・医療・介護予防・住まい及び生活支援が包括的に確保される体制(Ⅱ地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。本県は、第7期介護保険事業(支援)計画等を踏まえ、引き続き、市町による計画的な介護サービス基盤の整備や事業所指導等に対する支援を実施するとともに、人材確保に向けた労働環境の改善や外国人を含めた介護業界への就業促進等の取組を推進してまいります。

「できる限り住み慣れた地域で、最後まで尊厳をもって自分らしい生活を送りながら老いていただく」ことが、地域包括ケアシステム構築の理念です。在宅復帰支援機能と在宅療養支援機能の二大機能を併せ持つ介護老人保健施設が、今後とも地域包括ケアシステムの中核施設としての役割を十分に果たされることを期待しています。

ていると言っても過言ではないと思います。

国の方も危機感を持ち外国人介護人材の確保を目指しています。初年度は5000人受け入れその後の5年間で最大6万人程度を受け入れるという内容です。この数は介護人材の不足分を全て賄う数ではありませんが、各事業所は外国人の雇用を目指し処遇を含めた環境整備に力を入れる必要があるかと思っています。

また、2019年10月から優秀な人材の定着を目指して「新しい処遇改善加算」が施行されることになりました。10年以上勤務する介護福祉士を高く評価するもので「働きがい」のある職場を提供できるようになると期待しています。この制度では介護職以外の看護職、リハビリ職、ケアマネジャーなども評価対象になります。(2018年12月12日第166回社会保障審議会・介護給付費分科会の資料より)。このように私どもを取り巻く環境は激変しています。

既にAI・IoT・センサーの導入やロボットの導入を検討している老健もあると聞いています。また、介護する人を介護する職種として現役をリタイヤした人の雇用などにも取り組んでいる老健もあると聞いています。

結論として思いつくあらゆる手法を取り入れて各老健が5年後生き残っていることがこの静岡県の安寧にとり必要な事だと考えています。頑張りましょう。

さて、昨年は6月に大阪北部地震、7月に西日本豪雨、9月に北海道胆振東部地震による甚大な災害が相次いで発生し、また、本県においても台風24号の通過により大規模な停電等が発生し、介護サービス事業所等の運営に大きな影響が生じたことは、記憶に新しいところです。

貴会におかれましては、こうした非常災害等から利用者の安心、安全な生活を守るため、各老人保健施設における具体的な計画策定や避難訓練等の実施、施設間や地域との連携、被災施設への支援体制の構築等が図られますよう、引き続き御尽力をお願いします。

結びに、貴会及び貴会会員の皆様におかれましては、介護老人保健施設の理念と「5つの役割と機能」を踏まえ、高齢者の尊厳を守り、在宅生活を支える地域の拠点として、益々ご活躍いただきますよう、お願い申し上げます。

診療報酬/介護報酬同時改定 評価・ポイント

資料提供：株式会社ワイズマン

平成30年度に診療報酬・介護報酬が同時改定された。団塊の世代が75歳以上となる2025年は、65歳以上の割合が30%に達すると見られている。^(※1) 今後も高齢者率が高くなると予測される今、質が高く効率的な医療・介護提供体制の整備を推進し、状態に応じた適切な介護サービスの提供、新しいニーズにも対応できる医療の実現を求められている。

※1 内閣府「平成30年版高齢社会白書」のデータより

報酬のあり方は「アウトカム評価」へ

2018年度の診療報酬・介護報酬同時改定では、地域包括ケアシステムの構築に向けて「医療・介護の連携強化」「質が高く効率的なサービス提供」を強く意識した改定が行われた。アウトカムや連携強化を評価する方向性は、在宅復帰・在宅療養加算についての類型及び算定要件の見直しや、新設された各種加算に明確に表れている。

独立行政法人福祉医療機構の「平成30年度介護報酬改定の影響に関するアンケート結果」によると、前年値同時期比事業収益について、在宅強化型・超強化型の約半数が増収と回答。加算型においても37.5%が増収と回答しており、増収要因として改定による利用者単価の変化を挙げた回答が最も多かった。

このような状況のなか、今後の方針として在宅強化型・超強化型を目指すと回答した事業所は27.6%にとどまっており算定要件のハードルが高いことが伺えるが、一方で、基本型の事業所において加算型を目指す意向が読み取れる結果となっている。^(※表1)

アンケート結果から、在宅復帰・在宅療養支援等指標において、在宅復帰率、ベッド回転率についてはランクアップが難しいと考える一方で、他の指標のランクアップにより加算型の算定基準をクリアしようとする動きが推察される。特に、基本型と加算型で実施状況に有意差のある入所前後訪問指導割合、退所前訪問指導割合のランクアップから取り組み事業所が多いのではないだろうか。^(※表2)

● 入所前後訪問指導割合

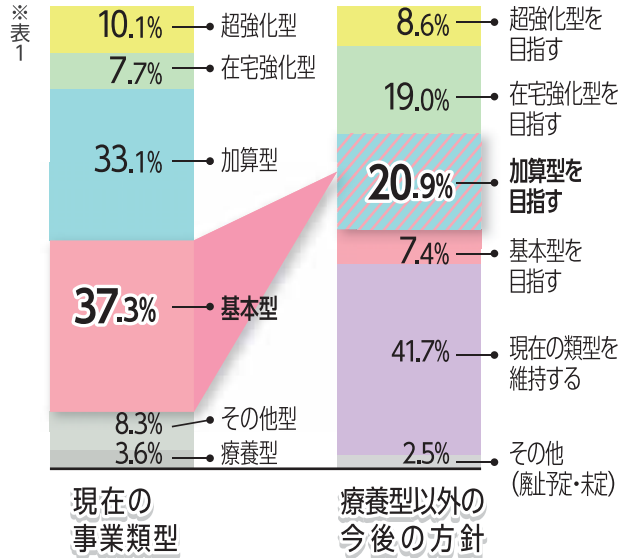
	30%以上	10%以上	10%未満
基本型	33.3%	23.8%	42.9%
加算型	41.1%	41.1%	17.9%

● 退所前後訪問指導割合

	30%以上	10%以上	10%未満
基本型	41.3%	17.5%	41.3%
加算型	67.9%	21.4%	10.7%

在宅復帰・在宅療養支援等指標（最高値90）

- | | |
|-------------|-------------|
| ・在宅復帰率 | ・リハ専門職の配置割合 |
| ・ベッド回転率 | ・支援相談員の配置割合 |
| ・入所前後訪問指導割合 | ・要介護4又は5の割合 |
| ・退所前後訪問指導割合 | ・喀痰吸引の実施割合 |
| ・居宅サービスの実施数 | ・経管栄養の実施割合 |



※表2

✓ここをチェック

改めて、今回の改定影響と事業所の対応を見ると、「**アウトカム評価**」へ備えるための**プロセス構築**が必要と考えられるが、人的リソース確保・離職対策などに悩まされる環境の中で、**現場負担をいかに軽減しつつ連携強化や業務見直しを進めていくかが重要なポイント**となるであろう。

※表3

新設加算の算定状況	排泄支援加算	低栄養リスク改善加算	かかりつけ医連携薬剤調整加算
算定している	14.2%	13.0%	5.9%
近いうちに算定予定	32.0%	23.7%	20.7%
算定していない	53.8%	63.3%	73.4%

※表4

かかりつけ医連携薬剤調整加算	算定していない理由	
	算定要件(かかりつけ医と共同で評価・調整して減薬に合意)を満たすことが難しい	71.8%
	算定要件(1種類以上の減薬)を満たすことが難しい	4.0%
	かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わない	13.7%
	必要性を感じていない	4.8%
	その他(その他型のため算定不可、対象者がいないなど)	5.6%

低栄養リスク改善加算	算定要件(栄養マネジメント加算の算定)を満たすことが難しい	13.1%	算定(予定)している理由	
	算定要件(他職種が共同して栄養管理のための会議開催・計画作成)を満たすことが難しい	15.0%	単位数が魅力である	4.8%
	算定要件(計画に基づく、食事観察・調整)を満たすことが難しい	9.3%	すでに実施している取り組みであるため	29.0%
	かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わない	20.6%	低栄養リスクへのプロセスを構築したい	54.8%
	必要性を感じていない	3.7%	将来のアウトカム評価の拡充に向けて今のうちに対応したい	9.7%
	算定可能な改善の見込める入所者がいない	31.8%		
	その他(その他型のため算定不可など)	6.5%	その他	1.6%
排泄支援加算	算定要件(介護を要する要因を他職種が共同で分析し支援計画を作成)を満たすことが難しい	34.1%	単位数が魅力である	1.3%
			すでに実施している取り組みであるため	37.2%
	かかるコスト・手間に比べて単位数が割に合わない	37.4%	取得により排泄支援・改善へのプロセスを構築したい	48.7%
	必要性を感じていない	4.4%	将来のアウトカム評価の拡充に向けて今のうちに対応したい	11.5%
	算定可能な改善の見込める入所者がいない	13.2%		
	その他(その他型のため算定不可など)	11.0%	その他	1.3%

静岡県老人保健施設協会でもセミナーをやっています



静岡県老人保健施設協会
猿原 孝行 会長



株式会社ASK 梓診療報酬研究所
中林 梓 先生



11月 12月
30日・1日
(木) (金)
全体研修会
会場 / KKR ホテル熱海

別府大分

地域と共に紡ぐ〇〇老健
豊の国から真価・深化・進化

平成31年
11月20日(水) ▶ 22日(金)

会場 別府ビーコンプラザ
iichiko総合文化センター
(大分市)ほか


大久保 健作
 (公益社団法人全国老人保健施設協会 大分県支部長)

主 催:公益社団法人全国老人保健施設協会

石岡い合せ
第30回全国介護老人保健施設記念大会別府大分 大会事務局(公益社団法人大分県老人保健施設協会内)
TEL:0974-77-2288 FAX:0974-77-2289 大会 URL: <https://www.roken2019-beppu-oita.jp/>  おんせん県おおいた

～目指すべきサービスの姿を実現するために～

政府はICT活用による介護分野の生産性向上を提言しているが、局所的な作業をIoT、AI、ロボットに置き換えることだけでは、将来に向けたプロセス再構築にはつながらない。アウトカム評価へのシフトや、地域包括ケアにおける事業間・職種間の「物理的」「心理的」距離の解消を踏まえた「目指すべきサービスの姿」の定義を行ったうえで、その実現のためにどのような事業運営フロー・業務フローが最適であるかを考える必要がある。そのなかでICTをどのように活用して現状と理想のギャップを埋め、根本的課題の解決につなげていくのかといった総合的なICT活用戦略が重要となってくる。

自法人の目指す姿とその実現に向けた課題解決の道筋を共に考え、最適な事業運営フロー構築に向けた総合的な ICT 活用を提案できるパートナーを選ぶことが、成果につながる ICT 活用のキープポイントといえるだろう。

《ごあいさつ》

静岡県老人保健施設協会の皆様、株式会社ワイズマンでございます。静岡県東部地区を東京統括支店、中部・西部地区を中部統括支店が担当させていただいております。

私たちワイズマンはこれまで、企画から開発・ご提案・サポートまで一貫して自社で行う体制にこだわりの商品づくりを行ってまいりました。医療・介護・福祉の分野で培ってきたノウハウを結集させた、ワイズマンのトータルソリューションで、地域包括ケアにかかわるすべての人を支えることが、当社の役割と考えて取り組んでいます。

コミュニケーション 情報共有

介護老人保健施設は、地域包括ケアの中の核施設として、多くの専門職が利用者様に携わり支援しています。そのため、さまざまな情報（記録）を素早く正確に共有することが求められると考えます。またその情報（記録）も重複することなく簡易的で、業務の負荷を軽減させる必要があると考えます。現在の職場は、必要なときに、必要な場所で、必要な情報を手にできる環境が整備されていますか？

ワイズマンのICTで解決

ワイズマンのICTは、静岡県担当エリアの導入チームにより進められます。担当営業によるヒアリングとご提案から始まり、施設に合わせた導入カリキュラムに基づき、サポートエンジニアによる訪問操作説明を実施します。本番稼働後も運用のフォローをさせていただきます。

導入の成果としていただいたお声を紹介します。

- ・タブレット活用で迅速に記録できるようになった。
- ・記録の重複作成（送り準備や連絡ノート）の作成が不要となり、残業を削減できた。
- ・情報を一元管理できるため、効率的に情報を共有することができた。

ワイズマンの ICT により、記録にかかる時間の短縮化と情報共有の実現により、利用者様と接する時間が増えたと評価をいただいております。

《おわりに》

医師をはじめ、看護、介護、リハビリ、栄養課、支援相談員等専門職の皆さまが、本来の業務に専念できる環境を整えることが、やりがいを感じられる職場となり、質の高いサービスへと繋がると考えます。私たちワイズマンは、全老健様の賛助会員として引き続き、皆様へ製品とサービス提供にてお役に立てれば幸いです。

MeLL+(メルタス)は、法人内や地域での医療施設・介護事業所間の連携を実現する、医療・介護連携サービスです。多職種スタッフ間での情報共有やコミュニケーションが可能になるため、患者様・利用者様へのより適切なケアやサービスの提供につながります。医療・介護・福祉のシームレスな連携で、地域包括ケアシステムの実現を支援します。

※ 株式会社ワイズマン Mell+の資料より抜粋



ICT

Information and Communication Technology
情報通信技術



職員研修発表会

11月
13日
(火)

【会場】
もくせい会館 富士ホール

TOPIC 2

第1部 《座長》 萩の里 看護師長 大村 直子



通所リハビリにおけるサービスの見える化について

ご利用者の事を毎月ケアマネジャー様へ写真付き報告書にてお伝えする事で、既存ご利用者の情報共有が密になった他、職員間の意識が変化しレク等サービス内容も充実し、新規相談件数・新規ご利用者増加に繋がった。今後は地域リハビリにも力を入れ、地域の方々も立ち寄れる施設作りを目指していきたい。



こみに
支援相談員 月岡 良太郎

サ高住の入居者の支援を通して見えてきた課題

地域包括ケアシステムが進む中、サ高住で生活される利用者は増加することが予想される。支援していく中で主治医サービス事業所との連携は必須だが、サ高住職員との連携も大変重要となる。利用者の生活を支えるチームとして顔の見える関係性作りを積極的におこない支援していきたい。



みずほケアセンター
介護支援専門員 河北 一二三 (左)
介護支援専門員 松本 賢蔵 (右)

日々のカンファレンスの有効性について ～スタッフの意識を調査し得たもの～

カンファレンスは情報共有の場である。今回の結果からは、堅苦しくなく意見が言いやすい環境であること、スタッフの連携体制が確立していること、さらに、カンファレンスノートを見ることで情報共有ができていたことが示唆され、カンファレンスが有効であることが考えられた。



池田の街
看護師 深澤 京子

個別排泄 ～夜間のオムツ外しはなぜおこすか～

介護者の負担の大きい排泄の汚染。中でもオムツ外し、弄便行為は負担をさらに増加させる。それらを減らす目的で、データ収集を行い個人別にデータを整理した。その結果、個人毎に固有の傾向があることが把握でき、傾向に対して個別対応する事で汚染減少につながり、排泄の個別性も再認識できた。



ハイマート有玉
介護福祉士 本田 友克

セラピストと介護士の連携による自立支援の取り組み

セラピストと介護士で月に1度の自立支援についての会議を開催した。会議を通して利用者様の生活場面からセラピストと介護士が連携する取り組みを導入した。自立と判別するための評価表や取り組みの見える化等を行ったことで職員だけでなく利用者様の自立支援への意識が高まった。



秋の里
理学療法士 堀井 栄作

在宅復帰に向けて ～他職種との連携による包括的なケアを行う～

今回の研究発表は、在宅復帰について他職種と連携した上で様々な意見を頂き、実践した取り組みに関する報告です。失禁、尿量に関する骨盤底筋群体操や、車椅子からベッドへの移乗介助等を行い、結果として在宅復帰に対する職員全体の意識も大きく変化した事が感じられたので、有意義な事例研究を行うことが出来ました。



白脇ケアセンター
介護福祉士 青島 みなと (右)
介護福祉士 田原 友貴 (左)

水分摂取量を増やすことで認知機能障害は軽減するか ～R4 システムの評価を取り入れて～

私たち西山ウエルケアでは、認知機能障害のある入所者様たちに対し、日々その方らしく過ごして頂きたい、少しでも活気のある生活をと願っている。今回認知症の根底には水不足があるとの説より、水分摂取量の増加がどのように認知機能障害の改善に繋がるか検証し、適切な水分補給の大切さがわかったためここに報告する。



西山ウエルケア
介護福祉士 堀内 睦未 (右)
介護職員 井上 大輔 (中央)
看護師 岡野 瑞穂 (左)



スケジュール 研究発表 /14 演題 参加者 80 名

10:30～11:40	第一部：演題発表
11:40～12:40	休憩
12:40～13:40	第二部：演題発表
14:00～15:00	「地域包括ケアシステムの構築について」 静岡県健康福祉部福祉長寿局長寿政策課地域包括ケア推進班 班長 / 加藤 克寿 氏
15:00～	表彰



第2部 《座長》 白脇ケアセンター 総師長 河合 ゆり



高次脳機能障害を呈した症例に対するIADL訓練 ～他職種連携による在宅復帰にむけた取り組み～

今回、在宅復帰支援として、高次脳機能障害を呈した症例に対して、他職種の協力と連携のもと IADL 訓練を実施した。その結果、日常生活における高次脳機能障害によるさまざまな問題点が明らかになったが、それらに対して継続的な支援方法を考える事で早期在宅復帰が可能になった。



まんさくの里
作業療法士 小峰 倫子

スピーチロック廃止へ ～無意識な言動を意識していくには～

忙しい業務の中、スピーチロックを行ってしまう現状を改善するため、職員に意識調査。2 回のアンケート結果から、多くの職員が意識的にスピーチロックを減らす事ができた。多忙な業務の中でも職員全体で意識を高く持ち、職場内の雰囲気をもよほす事に、スピーチロックは減らす事ができる。



なかよし
介護福祉士 林 隼平 (左)
介護職員 宇藤 知良 (右)

食に喜びを ～継続は力・喜びなり！！～

入所者様20名を対象に普段食べられない料理を提供し、家庭的な雰囲気を味わって頂くことを目的に始めたラーメン行事。10年たった今でも継続・拡大し、入所以外の部署でも行うようになり利用者様に好評を得ている。今後も利用者様と向き合い、一緒に感動できる施設・職員でありたい。



あすなる
介護職員 森本 忍 (右)
介護職員 渡邊 拓輝 (左)

認知症短期集中リハビリへの取り組みについて

認知症短期集中リハビリ対象者に対し、5つの指標を用い症状を細かく分析し、それをもとに個々に合わせた方法、内容の認知リハビリを検討し実施した。結果、ADLや生活意欲、認知症周辺症状の改善に大きな効果がみられ、利用者様の生活の改善につなげることができた。



新富士ケアセンター
理学療法士 中澤 真里奈

認知症ケアの知識をみんなに

外部研修参加後の施設内伝達講習を行っているが、様々な事情で全員が参加することが出来ず、情報共有が不十分であると感じていた。そこで、伝達講習方法を工夫し、全員に参加してもらう事で情報共有が行え、ケアの質の向上にもつながると考えた。その取り組みの経過と成果について報告する。



あみ
介護福祉士 若林 祐未

ゼロから始めるセンサー考察

強化型老健取得の為の業務改善などで、事故、ヒヤリハットの分析時間が以前よりも減少した。その為、個人にあった対応策を検討できずにとりあえず離床センサー設置という流れが定着してしまった。設置、撤去の基準を明確にし、センサー以外の個人に合った対応策を取り入れるようにしていく。



おおひら
介護福祉士 高村 祐一

魅力作り委員会発信！カフェプロジェクト ～職員専用カフェテリア「ユニカフェ」OPENまで～

各部門から若手女性職員を選出しプロジェクトチームを結成。半年後2018年6月に開始。狙いは「職員満足度の向上と定着を目指す」「部門を超えたコミュニケーション環境を作る」「休憩と仕事をキッチリ分け、リラックスしてもらう」。ユニカフェは職員専用で24時間利用可。無料か少額でのドリンクバー・フリー Wifi・スマホ充電器の貸出・食品販売等の環境を整える等して運営。隣室は同時にパソコンルーム開設。自由に活用でき、飲み物を片手に議事録等の作成ができる環境です。



ユニケア岡部
事務長 長谷川 洋平 (右)
介護福祉士 植松 拓行 (左)



生活の場を考える ー リーフレットの作成と経過 ー

在宅復帰支援へのシフトチェンジの中で中堅研修から導き出された課題に対し、具体的な対策としてリーフレットの作成に繋がった。相談員を中心に作成し、作成までの経過の中で様々な意見や新たな課題も見えてきた。

介護老人保健施設 みずほケアセンター / 介護福祉士 橋本 真弥

夫婦で家に帰りたい！

ー 夫婦の生活に基づいた在宅支援と家族ケア ー

4世帯同居の夫婦が「夫婦で家に帰りたい」と希望されたが、同居家族の不安が多い状態であった。早期に家屋評価や面談を行い、多職種で連携を図りながら具体的な支援を行い、在宅復帰と退院後の支援に繋がった。

介護老人保健施設 平安の森 / 作業療法士 鈴木 小織

安心と安全を考慮したサービスを提供するために ー ヒヤリハットから利用者様の安全を考える ー

当施設ではH27 年度に重大事故が頻発してしまったことでH28 年度よりヒヤリハットに力をいれてきた。ヒヤリハットの報告数の増加と分析力向上・重大事故減少が課題でありH28 年度から取り組んできた結果を報告する。

介護老人保健施設 なぎさ園 / 介護福祉士 高野 公貴

認知棟における「音楽ケア訪問」の試み

認知棟において、近隣大学の学生ボランティアによる「音楽ケア訪問」のレクリエーションを8回実施した。音楽を楽しみ、学生との交流をもつことで、入所者の表情が豊かになり QOL 向上に繋がった。

介護老人保健施設 萩の里 / 看護師 市川 元美

前傾姿勢をなんとかしたい

ー 仰臥位の効果とは ー

離床 30 分前の仰臥位を取り入れる事で、座位時の前傾姿勢が改善できると研修で学んだ。前傾姿勢を予防し正しい姿勢を保つ目的で仰臥位を取り入れ、効果の見られた事例について報告する。

介護老人保健施設 新富士ケアセンター / 介護福祉士 杉山 綾香

イレウスは老健で対応可能な疾患か

最近3年間で経験したイレウス10例(13回)であった。当施設で治療を行ったものは62%、残りは搬送となった。早期診断、治療が必要であり麻痺性イレウスは対応可能と考える。我々の治療方針について紹介する。

介護老人保健施設 萩の里 / 医師 大平 政人

戦うケアワーカー

多忙な夜勤業務をいかに効率よく進めるために利用者の睡眠パターンに着目し、業務改善を見直したことをここに報告する。

介護老人保健施設 静岡徳洲苑 / 介護福祉士 児玉 悟

ストレングス効果

ー つながろう支援の輪 ー

山間部にあるご自宅へ、様々な課題を経て在宅復帰されたA様。本人の思いに寄り添い、ストレングス効果を実践した地域包括ケアチーム体制について報告する。

介護老人保健施設 静岡徳洲苑 / 介護支援専門員 杉村 哲男

個別排泄ケアを目指した1症例

大腿部切断を余儀なくされ、自立排泄が困難となり、排泄に対する執着が強くなった利用者様の症例検討をした。利用者様の变化と今後の課題、継続性を考えさせられたのでここにまとめる。

伊東市介護老人保健施設みはらし / 介護福祉士 小林 秀彦

トイレでの排泄を目指したケア

ー トイレに座ってもらおう!! ー

在宅復帰を支援する施設として排泄ケアに力を入れてきた。以前はコスト面についての視点が強く、利用者様へのケアが不十分であった。多職種協働にて多角的な視点で利用者様の排泄ケアの取り組みを行っている。

介護老人保健施設 エスコートタウン静岡 / 介護福祉士 秋原 真実

排泄体操による効果の検証

生活習慣の中で排泄は重要な位置を占める。その中で便秘解消の為の下剤が利用者様に苦痛や不快を感じさせる事がある。そこで便秘解消の排泄体操のDVDを作成し試験導入を行なった結果の報告をする。

介護老人保健施設 なぎさ園 / 介護福祉士 高橋 弘樹

療養病棟で終末期がん患者に関わる 介護士としての役割

終末期がん患者の1事例を通し、介護士として行ったケア、関わりをカテゴリー化し、漠然としたケア、関わりに対し根拠付けをすることで終末期がん患者に対する介護士としての役割を明らかにする。

老人保健施設 はまおか / 介護福祉士 曾根 菜都美

当施設入所者の皮膚裂傷について

ー ヒヤリハット報告集計より見えてきたこと ー

平成 28 年度のヒヤリハットの集計より、3 a レベルの事象で、皮膚裂傷件数が多くを占めていた。皮膚裂傷が起きる背景を考え、利用者側の問題・介護方法の問題を挙げ、検討した。

三島総合病院附属介護老人保健施設 / 看護師 曾根田 千秋

教育プログラムから導く老健看護師の役割

ー 老健看護師のリアリティ・ショック ー

当施設に入職する看護師は、病院、開業医、ブランクがある人等、多様な経験から施設看護師として働くことになる。それぞれの経験から誤差を整えるために教育プログラムを導入した取り組みについて報告をする。

介護老人保健施設 富士中央ケアセンター / 看護師 杉山 美揮子

藤枝市老健・特養合同の施設対抗介護技術大会開催

ー 地域に眠る人材発掘！魅力と奥深さの情報発信 ー

介護業界を取り巻く、人材不足、養成校の定員割れ、就職希望の減少。少しでも、環境を変えようと、中高生を対象に、介護の魅力発信をするため、老健 4 施設と特養 7 施設で開催された、藤枝市 PK 選手権大会を報告する。

介護老人保健施設 ユニケア岡部 / 福祉部長 小沼 克典

心地よい目覚めを目指した起床介助

ー 朝食前の全利用者一斉の起床介助からの脱却 ー

朝食前の一斉の起床介助は、生活リズムを奪い、職員が疲弊し、業務都合の生活であった。一斉の起床介助を止めた事による、生活の変化、職員の負担軽減に結びついた取り組みについて報告する。

介護老人保健施設 ユニケア岡部 / 介護福祉士 長瀬 有可

アロマセラピーの効能

ー 二種のオイルを用いて ー

施設生活において、夜間不眠及び、日中不穏の利用者様にアロマセラピーを行った結果、数名の利用者様に変化が見られたので、その状況を報告します。

介護老人保健施設 のぞみ / 介護職 稲葉 和司

第29回

全国老人保健施設大会 in 埼玉

10月
17日~19日
(水) (金)

彩ろう! 豊かな高齢社会を

～老健は地域づくりの担い手です～

認知症ケアの知識をみんなに

外部研修で学んだことを施設内研修という形で職員に伝達し、知識を増やす機会を作り、今まで以上に職員全員が「一人一人に寄り添えるケアの質の向上」を目指した。その取り組みを報告する。

介護老人保健施設 あみ / 介護福祉士 小川 陽輔

ウチに帰りたい! 看取りケアから在宅へ

ー 本人様と家族様の願いを叶えたことで学んだこと ー

看取り希望で入所されたT様の「ウチに帰りたい!」という思いから、家族様と多職種で連携しチーム一丸となり在宅復帰する事ができた。その取り組みを通し多職種との関わり方により変化がみられた事を報告する。

介護老人保健施設 まんさくの里 / 介護福祉士 高野 衣美

ゴルフに行きたい、200ヤード飛ばしたい!

ー 眩きから始まったプロジェクト ー

無気力な生活を送っていた利用者の「ゴルフへ行きたい」という眩きを聞き、多職種によるゴルフプロジェクトを発足。その結果、ゴルフ場で3ホールを回った達成感から、活動的になり、世の中にも関心を持ち始めた。

介護老人保健施設 梅名の里 / 介護福祉士 佐藤 剛

意欲に繋がるために必要なこと

日常生活動作に全介助を要する一症例が、自閉的な特性を考慮した取り組みによって意欲が高まり身辺動作の向上や経口摂取まで至った事例を報告する。

介護老人保健施設 みしゅくケアセンターわか葉 / 理学療法士 田邊 昌哉

人間らしさを尊重し周辺症状が 改善した事例

認知症の周辺症状が強く、ケアが困難な利用者様において、その人らしさに着目し多職種協同で褥瘡や食事摂取の改善に繋がった事例。

介護老人保健施設 みしゅくケアセンターわか葉 / 介護福祉士 滝口 辰徳

ザ! みつける!

ー ミッケルアート回想法を用いた教育改革 ー

ミッケルアート回想法を用いた新人職員教育の取り組みを行い、共通理解を深め、活きた教育が出来たことをここに報告する。

介護老人保健施設 静岡徳洲苑 / 介護福祉士 成岡 千裕

個別及び集団での リハビリテーションの効果の検討

入所者の身体機能及び移動能力を高める為に個別と集団でのリハビリテーションを実施した。個別に加え集団でのリハビリテーションを実施した方がより下肢筋力や移動能力に効果があると考えられた。

介護老人保健施設 エスコートタウン静岡 / 理学療法士 田村 佳亮

円背姿勢の利用者への取り組み

ー チームアプローチを通して ー

円背姿勢の利用者様を対象に排洩動作能力向上を目標に、多職種と協力して自主トレを実施した。今回チームアプローチを通して結果を得る事ができたのでここに報告する。

介護老人保健施設 静岡徳洲苑 / 理学療法士 樋 陽子

認知症短期集中

リハビリへの取り組みについて

認知症短期集中リハビリ対象者に対し、それぞれの認知症症状を細かく分析し、個々に合わせたリハビリ内容を検討し介入した結果、ADLや生活意欲、認知症周辺症状の改善を認めたため報告する。

介護老人保健施設 新富士ケアセンター / 理学療法士 草谷 真里奈

多職種連携によるトイレ動作に 焦点を当てた自立支援

当施設では PT がフロアに駐在し、トイレの移動と動作に対して実際の生活場面で介入している。今回、リハビリ職員と介護職員で連携を図った群と、リハビリ職員のみで行った群とで比較し分析したため報告する。

介護老人保健施設 萩の里 / 理学療法士 北條 博也

「肺炎での入院ゼロ」を目指して

利用者様の在宅復帰を進めているが、病院へ入院してしまう利用者様もいる。入院の原因の中で「肺炎(誤嚥性肺炎を含む)」が多かった為「肺炎による入院ゼロ」を目標に施設全体で取り組みを行ったので報告する。

介護老人保健施設 まんさくの里 / 管理栄養士 堀井 可那

食事のかたち

ー 食事介助を通して ー

認知症重度の入所者が増え、失認失行に伴い食事介助が必要なケースが半数以上を占め、個々の利用者に合わせて安全な食事介助を心がけている。中でも特に安全面・倫理面に考慮し取り組んだ事例について報告する。

介護老人保健施設 ヒューマンライフ富士 / 看護師 稲葉 香織

部会報告
part 1

看護・介護部会

介護老人保健施設での感染症対策について

地方独立行政法人 静岡県立病院機構
静岡県立総合病院 感染対策室 感染管理認定看護師
鈴木清美先生 講義・演習

theme
介護老人保健施設での
感染症対策について
・標準予防策の実施の重要性

平成30年12月4日、シズウェルにて平成30年度看護・介護部会を開催いたしました。参加者総数は64名でした。

地方独立行政法人 静岡県立病院機構 静岡県立総合病院 感染対策室 感染管理認定看護師の鈴木清美先生を講師に迎え、「介護老人保健施設での感染症対策について」というテーマで、鈴木先生の体験談も交えながら講義や演習をして頂きました。感染症の講義から始まり、動画による手袋・プラスチックエプロン・マスクの着脱方法を学んだ後実技を実施し、その後正しい手洗い方法の実技が行われました。

【感染・介護老人保健施設の特徴】
① 入所者、通所者は抵抗力が弱い高齢者である。

② 感染すると重症化しやすい。

③ 集団生活しているため感染が拡大しやすい。

④ 症状がはつきりせず診断が遅れやすい。

⑤ 認知機能が低下している場合は、衛生管理、感染対策への協力が得られないことがある。

以上を理解した上で、日頃のケアを実施していかなければならない。

【施設内感染を起こさないためには】

① 病原体を持ち込まない。

② 病原体を持ち出さない。

③ 病原体を広げない。

その為に日常の感染対策として、標準予防策（スタンダード・プリコーション）の実施の重要性を強調されていました。



スタンダード・プリコーション
(standard precautions, 標準予防 措置策)

標準予防措置策（スタンダード・プリコーション）は、病院の患者だけを 対象としたものではなく、感染予防一般に適用すべき方策であり、高齢者介護施設では、特に嘔吐物・排泄物の処理の際に注意が必要になります。
標準予防措置策（スタンダード・プリコーション）の具体的な内容としては、手洗い、手袋の着用をはじめとして、マスク・ゴーグルの使用、エプロン・ガウンの着用と取り扱いや、ケアに使用した器具の洗浄・消毒、環境対策、リネンの消毒などがあります。

※厚生労働省「高齢者介護施設における 感染対策マニュアル」より抜粋

私個人としては、環境対策として、環境を触った人の手を介して感染が広がるという話の中で、「ベッドに臥床している方は、ベッド柵を下から掴む。だからこそ、ベッド柵は上だけでなく下もしっかりと清掃すべき。」とのことで、言われてみればなるほどなと思いました。



手洗い方法についての実技



▲ 指先、爪の間、指の間をよく洗う

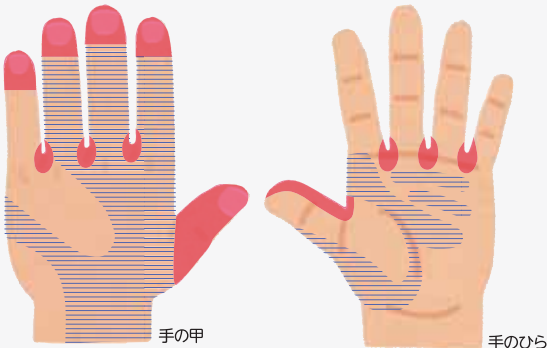
▲ 手のひら、手の甲をよくこする。手首までしっかり洗う。



▲ 手洗い後、ブラックライトで汚れを確認。まだ汚れが残っている部分が白く映し出されています。

皆さん汚れがかなり残っており、特に洗い残しの多い部分について再認識することができました。

手洗いミス発生箇所



頻度が高い
頻度がやや高い

※図解参考資料：日本環境感染学会監修 病院感染防止マニュアル(2001)

【まとめ】

質疑応答では、多くの参加者が熱心に質問をされていました。鈴木先生の人柄もあり、すべての質問に丁寧に回答していただき、予定時間を過ぎてしまう実りある研修になりました。

今年もインフルエンザが猛威を振るっております。介護老人保健施設では施設内での感染が広がることにより、ショートステイを含めた入退所を止めなければなりません。これは、経営的にも大打撃となります。高齢者施設は、医療機関に比べ感染予防の意識が低いように感じていますので、是非、今回の研修が、参加者の施設ケアに活かされればと思います。

部会報告
part 2

リハビリ部会

第1回 介護保険改正に伴う各施設の現状
第2回 メンタルヘルスを使ったりリハビリテーション

リハビリ部会DATA

日時	第1回 平成30年9月12日 第2回 平成31年2月13日
場所	もくせい会館
担当	ゆうゆう・おおひら

第1回 グループワーク

リハビリの実施状況
リハビリ提供の工夫や悩み

平成30年度の第1回リハビリ部会が、平成30年9月19日に33施設49名（PT27名・OT22名）の参加をいただき、開催されました。

第1回では、今年度改定された介護保険に伴った加算関係や各施設でのリハビリ実施状況、日ごろ悩んでいることなどを事前に集計したアンケートを元に、通所系・入所系に分かれグループワークを実施しました。

通所系では、「リハビリマネジメント加算について」「リハビリ会議にける時間はどのくらいか？」「対象者はどういう方か？」「DRとのかかわり方は？」などが主な議題に上がり、その内容の把握と方法などを含めた各施設の現在の状況を話

し合いました。その他、短時間利用の対応や支援の方々へのリハビリ内容なども議題に上がりました。

入所系では、在宅復帰への取り組み、入所前後訪問指導、短期集中リハビリ加算、リハビリの実施状況などを話し合いました。

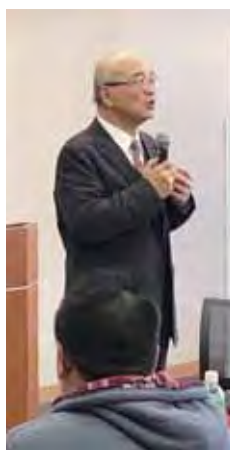
今回のグループワークでは、各施設が共通に悩んでいることを話し合えたり、実施状況、実施の工夫など、参考になった内容が数多くあり、各セラピストたちが現場ですぐに活かせるものとなったと思います。参加者からは、もっと話し合いたいという声もあるほどで有意義な時間を過ごしていただけだと思います。



第2回 清水英之先生 講義

theme
メンタルヘルスを使ったり
リハビリテーション
メンタルヘルスと
リハビリテーションの融合

第2回リハビリ部会は、31施設45名（PT27名・OT18名）の参加をいただき、トラスト生涯学習センター所長 清水英之先生をお招きし、「メンタルヘルスを使ったりリハビリテーション メンタルヘルスとリハビリテーションの融合について」というテーマで2部構成で講義頂きました。



第1部では、私たちがメンタルヘルス不調に陥る理由、メンタルヘルス対策についてのお話をいただきました。ストレスを受けるとストレスホルモンの作用により不眠・消化器官の機能不全・免疫力の低下など、健康への悪影響があること、先生の研究では肩凝りや認知症にもストレスホルモンが関わっているとのことでした。日本人は歴史的な背景からも、元来ストレスを貯め易い文化があり、波風を立てない人が「良い人」像であり、和を大切にすあまり本音を言えない人間関係がストレスを受けやすくしている環境があるとのことなどの講義いただきました。メンタルヘルス対策では、自分の心理的傾向を理解するためのセルフテストを実施し、ストレスがかかりやすい傾向の点数が高い場合の対応方法の紹介やストレスホルモンを減少させる丹田式呼吸法も教えていただきました。

【第2部】

第2部では、カウンセリング実習を2段階に分けて行いました。第1段階は二人一組になり5分間の傾聴訓練を実施し、相手の話を否定せずに話をささげらず、うなづく事のみで姿勢で過ごすことをしました。その後、話し手はどう感じたかをフィードバックをしました。第2段階では相手の話から安心感を与えることを意識した返答。相手の感情が表現されたところは、「怒りなのか」「不安なのか」それとも「失望なのか」などの共感的理解をした聴き方の訓練をしました。

参加者からは、「つい相手の話の途中で、自分の考えを言ってしまうことに気づけた」との感想も聞かれました。

今回の講義内容を活かし、他者との関わり方の幅が広がることでできばと思います。

【まとめ】

今回の研修で学んだ内容を、各施設で実践し、勉強会などに活かしていただければと思います。

また、皆様からのご意見、ご要望などがあれば参考にさせていただきまますので、ぜひお聞かせください。



第2回リハビリ部会 アンケート集計結果

▼意見・要望

- ・マイナス面を伝える事について、もっと良いやり方があったら知りたいと思いました。
- ・自分自身がストレスを感じやすい性格でもあり、今回の研修はとても興味がありません。学生の時に学んだ言葉や知識の再確認も多かったのですが、今自分が直面している状況を読み解く、分析するにはとても役立ちました。介護現場はスタッフも利用者様も高いストレスが常にあると感じます。今回の研修を職場の仲間伝えて少しでも現状が改善してくようにしたいと思います。研修ありがとうございました。
- ・先生のお話が上手で、とても楽しく聞くことができました。内容もほぼ理解できましたが、最後の受容と傾聴の応用、リハビリの応用の所で少し理解不十分な所がありました。
- ・腹式呼吸や安心できる関係作りなど、すぐに生かせるような内容が多かったです。ありがとうございました。
- ・傾聴の技術面で、相手の感情を引き出すのに難しいと感じました。今回学んだ事を臨床で生かせるようにしていきたいです。
- ・ホルモンとの関係までご説明頂き、より理解が深まりました。職場での伝達に努めていきたいです。ありがとうございました。
- ・先生の話し方がわかりやすい、引き込まれるような話でした。要点もわかりやすいし、資料も簡潔で理解しやすい。応用の仕方まで説明されており、その後に反映しやすいと思われる。
- ・仕事をしていく上でコミュニケーションに関して悩む事がたくさんあった為、今後の業務に活かしていきたいと思いました。
- ・とても良い研修でした。もっと聞いていたかったので、もう少し深い内容の研修も受けてみたい。
- ・静岡駅周辺で行ってほしい。静岡で行う事が多いが、浜松等でも実施してほしい。
- ・最後のQ&Aでの清水先生のお答えがリアルで良かったです。カウンセラーも人ですものね。自分の大事にやれたらと思います。
- ・テストで自分の心理状態を知ることができて良かったと思います。
- ・とても勉強になり、今後のリハビリの中で活かしたいと思いました。
- ・自分のストレス度の現状を知れました。 ・ 内容も理解し易く、良かったです。
- ・非常にタメになりました。ありがとうございました。 ・ 参考になりました。

▼参加したい研修

- ・心理面でのケアや、相手の考えを知れたらうれしいです。 ・ 災害時の各デイの対応について。
- ・言動から、相手の感情を察せられる技術。 ・ 認知症高齢者に対しての心理面でのかかわり方
- ・栄養（リハビリテーション栄養）、排泄面に対してのリハの対応や訓練など
- ・ベッド上ポジショニングについて、キャリアマネジメントについて、他職種連携について、住宅改修について

アンケート集計表

No	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6
1	2	2	2	1	3	2
2	3	2	3	2	3	3
3	1	1	2	1	2	2
4	2	2	2	2	2	2
5	1	2	2	1	2	2
6	1	1	1	1	3	2
7	1	3	1	1	1	2
8	1	2	1	1	2	2
9	1	1	1	1	1	2
10	1	2	1	1	2	2
11	2	2	2	2	3	2
12	2	2	2	2	2	2
13	1	1	1	1	1	2
14	1	1	1	1	1	3
15	1	1	2	1	1	2
16	2	2	3	2	3	2
17	1	1	2	1	2	2
18	2	2	2	2	2	2
19	2	2	1	2	2	2
20	1	1	1	1	1	2
21	1	1	1	1	1	2
22	1	2	3	2	3	1
23	1	1	1	2	1	2
24	2	2	3	3	3	2
25	1	2	2	2	2	2
26	1	1	2	1	1	2
27	1	1	1	1	2	2
28	1	1	1	1	1	2
29	1	1	1	2	3	2
30	1	1	1	1	1	2
31	1	1	1	1	1	1
32	1	1	2	1	1	2
33	1	1	2	1	2	2
34	2	2	2	2	2	2
35	1	1	1	1	1	2
36	1	2	1	2	2	2
37	1	1	3	1	2	1
38	1	1	1	1	1	2
39	1	1	1	1	1	2
40	1	1	2	2	3	2
1	30	23	20	25	16	3
2	9	16	15	14	15	35
3	1	1	5	1	9	2
4	0	0	0	0	0	
計	40	40	40	40	40	40



グループワーク

後半は、皆様からの意見を参考にした5つのテーマから一つを選択してもらい、グループディスカッションを実施していただきました。グループは他職種で構成しましたが、様々な意見交換が行われておりました。最後に、いくつかのグループに話し合った内容について発表していただきました。



【グループ発表①】

短時間通所リハビリの集客方法について

- ・長時間、通所リハビリに居る事に抵抗のある利用者が増えている。
- ・1日の通所リハビリでは、時間が余ってしまつ。
- ・短時間通所リハビリの需要が高まっている。
- ・午前の短時間通所リハビリ利用者には昼食用の弁当、午後は夕飯用の弁当を付けたらどうか？
- ・リハビリ内容を強化する必要がある。



【グループ発表②】

リハビリマネジメントⅢを算定するにあたっての問題点と解決策

- ・グループ内にリハビリマネジメントⅡを取得している施設は多くある、Ⅲは少なかった。
- ・医師がリハビリマネジメント会議に参加する事が難しいので、短い時間で内容の濃い会議にする事が大切だと思う。
- ・医師にテレビ電話で会議に出席してもらう。
- ・リハビリマネジメントⅢについて、もっと職員が理解しなければならぬ。
- ・個別リハビリと集団リハビリの上手く組み合わせるプログラミングする必要がある。
- ・リハビリ会議を実施すると業務が増えると思う。

【グループ発表③】

集団リハビリや集団レクリエーションの利用者様への促し方

- ・どの施設にも消極的な利用者はいる。
- ・個別に対応し、徐々に関わりを増やしていくなら良いのでは？
- ・自主トレを促す
- ・共通の趣味のある利用者や仲の良い利用者と過ごしてもらう。
- ・イベントやクラブ活動などを企画し、お便りを作って参加を促す。
- ・見学から始める。
- ・興味・関心チェックリストを活用し、参加しない原因を探る。

【まとめ】

皆様、積極的な意見交換をしていただき、大変お疲れ様でした。
通所リハビリの質を高めるため各施設におかれましては、日々、様々な対策や工夫をされている事と思います。素晴らしい通所リハビリを展開できますよう、当部会で得た情報を施設に持ち帰っていただき参考にして下さい。
ご参加いただきました皆様、並びに発表して下さった梅名の里の皆様、本当にありがとうございました。

部会報告 part 3

通所リハビリ部会

施設発表・グループ検討会

自立支援・重度化防止の取り組み

職員の意識改革と リハマネⅢの取得について

平成30年11月20日、もくせい会館にて第一回通所リハビリ部会を開催いたしました。通所リハビリテーションに勤務しているセラピスト・看護師・介護職員・支援相談員など、総勢55名の方にご参加いただきました。

前半は、「自立支援・重度化防止の取り組み」職員意識改革とリハリマネⅢというテーマで「介護老人保健施設梅名の里の塚原志保様（支援相談員）、小山由華様（作業療法士）、内田真美様（作業療法士）」に発表していただきました。

自立支援に目を向け、職員だけではなく利用者自身の意識改革を行った事や自己決定式のプログラム・グループ別による

機能訓練など様々なツールを用意した事について説明いただき、参加者の皆様より「とても参考になった。自施設に取り入れたい」などの声が多く聞かれました。また、リハビリ会議を定期的の実施し、リハリマネⅢを強化した事例発表についても「成功例が聞けて良かった。勉強になった。」などの感想が寄せられました。

終わりに、通所リハビリのあり方を更に追求していくための課題が示され、現状維持に陥らずに自立支援・重度化防止に取り組む強い姿勢を感じる事ができました。

梅名の里の皆様、本当にありがとうございました。



通所リハビリDATA

日時	平成30年11月20日
場所	もくせい会館
担当	萩の里・みゆきの苑

部会報告
part 4

防災部会

BCP（事業継続計画）事例発表会

東部 中部、西部の30施設 45人の方に
参加していただきました。

講師として、昨年同様、福祉事業所向け
の災害対策支援をされている株式会社C
O A c t 代表取締役の渡嘉敷唯之氏を
お招きしました。

災害対策・取組み事例発表
ケアセンター池田の街
作業療法士係長 水上直紀氏

立地とリスクの説明後、備蓄や防災用品・設備の紹介と、防災訓練やBCPの内容を発表していただきました。BCPは発生直後から数日後までのタイムラインが定められており、分かりやすく記載してある他、職員の防災研修計画も細かく目標設定してある等、非常に参考になりました。



福祉事業所向け災害対策支援
株式会社CoAct
代表取締役 渡嘉敷唯之氏

① 平成30年7月 西日本豪雨

静岡市内の福祉事業所職員と共に、被災地支援に向かった際の話をお伺いしました。土砂災害で建物が使えず、避難先での事業継続を余儀なくされた施設に対し、環境の変化から疲弊している現地職員と、ご利用者の負担を軽減する為、日勤帯での介護全般のフォローや、夜勤の見回り補助、起床、食事介助等の支援を行う等、被災地の実情を知る事が出来ました。

② 平成30年9月 北海道胆振東部地震

発生当日、偶然北海道の福祉事業所の支援に来ていた渡嘉敷氏が体験したブラックアウト。信号機と街灯の停電や、医療機関では人工呼吸器が停止し、患者が重態になる等、その影響の大きさと、停電対策の大切さを学びました。

【グループ発表】

A～Fの6グループに分かれ、台風24号の停電時の対応について情報交換しました。主な停電時の状況と、その対策として出た意見を記載します。

1 照明対策

- ・懐中電灯・ヘッドライト、ランタンを使用。
- ・必要に応じて他施設より借りる事も検討。
- ・日中は日当たりの良い窓側へ移動する等工夫。

2 通信障害

- ・車のシガーソケットより携帯を充電、必要に応じて職員の私物を借りる。
- ・トランシーバー使用。
- ・自家発電機から電話交換機へ電気を供給し復旧。
- ・情報収集はラジオ、伝達はメールやLINEを活用。

3 空調関連

- ・暑い時は団扇を使用、寒い時は毛布を使用。
- ・加湿は濡れタオルで対応。



グループごとに以下のテーマを話し合いました

- ・台風 24 号の停電時の困りごと対応
- ・各施設の体制と工夫について

4 医療機器障害

- ・センサーマットやナースコールが使えない為、巡視回数を増やす。
- ・ご利用者を食堂等見守りし易い場所へ移動する等。
- ・酸素は使えるコンセントでコードリールを使用。

5 生活用水対策

- ・賞味期限が切れたペットボトルを使用。
- ・ポリタンクで受水槽から運ぶ。
- ・外からホースで上階へ供給。
- ・日頃から浴槽に水を溜めて生活用水として使用。

6 食事関連

- ・カセットコンロや防災かまどを使用し調理。
- ・品数を減らして調理負担を軽減。
- ・きざみ食は発電機でミキサーを動かす対応。
- ・LPガスでお粥を作る。
- ・食事の運搬は階段を使用、また職員の出勤時間を早めにし、バケツリレーのように運搬。

どの施設でも工夫して対応しており、お互い、有意義な情報交換の場となりました。

【休憩時間に
BCPを閲覧・情報交換】

8施設が会場にてBCPを公開しました。ご協力ありがとうございました。

休憩時間にBCPを写真撮影、参加者同士で情報交換する等、とても充実した時間となりました。

- BCPを公開していただいた8施設
- ・浜松市 入野ケアセンター
 - ・浜松市 みずほケアセンター
 - ・浜松市 白脇ケアセンター
 - ・沼津市 椎路の里
 - ・静岡市 ケアセンター池田の街
 - ・伊東市 みはらし
 - ・藤枝市 ユニケア岡部
 - ・静岡市 こみに



休憩時間

【研修後の感想】

- ・台風24号の実体験をもっと聞きたかった。
- ・もう少し長い時間で他施設の皆さんの意見を伺いたかった。
- ・他施設のBCPが見れて大変良かった。
- ・グループワークで停電時の対応を聞き、ためになりました。
- ・情報を共有出来て良かった。今後の対策を考えるきっかけとなった。

これらの感想以外にも前向きな意見を沢山いただきました。

来年度もそれぞれの取り組みを相互で共有し、高め合っていく場を作っていきたいと思います。



講師
株式会社CoAct 代表取締役 渡嘉敷 唯之 氏



ケアセンター池田の街
作業療法士 係長 水上直紀 氏

防災部会DATA

日時	平成30年10月30日
場所	シズウェル
担当	こみに・ユニケア岡部



theme
第2部 株式会社フードケア介護食シェフ 在川一平氏 講義
嚥下調整食作りにおける
ゲル化剤のいろは

高齢者施設において嚥下状態が悪く食事をするように飲み込めない方がいらっ
しゃいます。

嚥下調整食の分類が明確化されゲル化
剤を使用してゼリー状にした食事の必要
性が高まっています。従来のとろみ剤で
はゼリー状にはなりません。

実際に現場で調理していただき、参加
者にも試食をしていただき、ゲル化剤の
正しい使用方法を説明していただきまし
た。使用方法を間違えると適切なゼリー
にはならず正しい使い方が求められます。

【まとめ】
2つのテーマとも高齢者施設では重要
なテーマだと思えます。
薬剤、食品、調整用食品等正しい使い
方をして利用者様に気持ちよく生活して
いただきたいと思います。

theme
第1部 ネスレ日本株式会社
本山一穂氏 講義
排便コントロールについて

高齢者施設において問題に上げられる
のが下痢と便秘です。

便秘傾向の方が多く下剤を使用すると
下痢になる方もいらつしゃいます。適切
な排便コントロールは排便状況の確認と
適切な薬剤の利用が大切になります。



薬剤に頼らず状況に合わせて食事に食
物繊維を含む食品を取り入れて排便をコ
ントロールすることが望めます。
食物繊維を含む濃厚流動食等の紹介を
していただきました。

部会報告
part 5

栄養部会

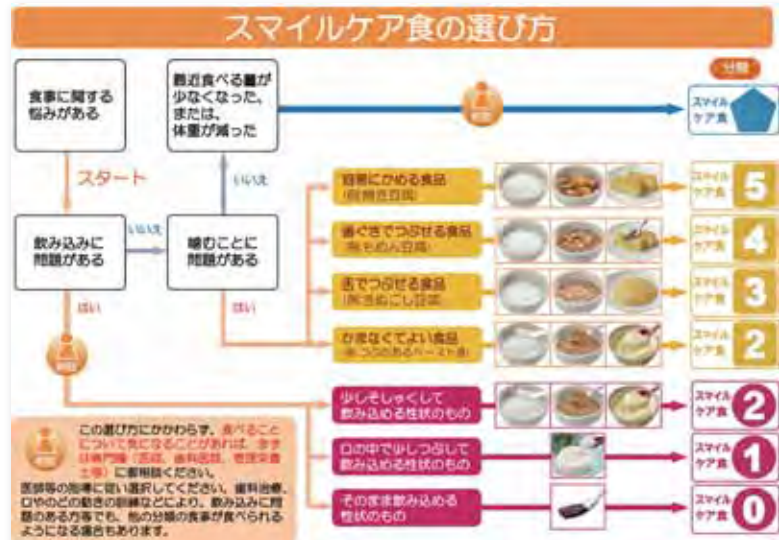
▽排便コントロールについて
▽嚥下調整食作りにおけるゲル化剤のいろは

栄養部会DATA

日時	平成30年11月22日
場所	シズウエル
担当	ケアセンター瀬名・三方原ベテルホーム

スマイルケア食（新しい介護食品）

農林水産省では、介護食品の市場拡大を通じて、食品産業、ひいては農林水産業の活性化を図るとともに、国民の健康寿命の延伸に資するべく、これまで介護食品と呼ばれてきた食品の範囲を整理し、「スマイルケア食」として新しい枠組みを整備しました。
「スマイルケア食」は、健康維持上栄養補給が必要な人向けの食品に「青」マーク、噛むことが難しい人向けの食品に「黄」マーク、飲み込むことが難しい人向けの食品に「赤」マークを表示し、それぞれの方の状態に応じた「新しい介護食品」の選択に寄与するものです。



調整用食品・介護食品を
上手に取り入れていきましょう

ネスレ日本株式会社
アイソカル（濃厚流動食）
水溶性植物繊維配合の高濃度バッグタイプ

【栄養成分】
・アイソカルサポート BAG
・食物繊維グアーガム加水分解物 (PHGG) 配合、
・1.5kcal/mlの流動食。
・たんぱく質 3.8g/100kcal
・乳糖ゼロ
・脂質中の36%がMCT（中鎖脂肪酸油）
・食物繊維グアーガム加水分解物 (PHGG) 配合

様々な製品群で栄養管理をサポート

※Nestle Health Science ネスレ通販ページより商品紹介を抜粋

株式会社フードケア
お粥のゼリーの素「スベラカーゼ」

スベラカーゼは、べたつきの原因であるでんぷんを、
α-アミラーゼ（でんぷん分解酵素）で分解し、同時に
高温で固まるゲル化剤でゼリー状にすることで、嚥
下適性のある温かいお粥をつくることができる。嚥
下に障害があっても、主食である“ご飯”を食べたい
という日本人の思いを可能にする商品として、高齢
化社会での活用が期待される。

第21回安藤百福賞「発明発見奨励賞」受賞

※ food Care JAPAN スベラカーゼ紹介ページより抜粋



新規会員施設紹介



地域における老健として、 質の高いサービスを提供していきます。

コミュニティーケア大井川の「コミュニティー」は、地域社会を意味しております。その名前にある通り、「地域の安心の施設」、「地域の信頼の施設」、「地域の良質の施設」を目標に、地域において質の高い介護サービスを実現していきます。旧大井川地区では初めての介護老人保健施設であり、この地域の介護の拠点となるよう期待されております。その期待に応えられるよう職員一致団結し、地域の皆様が健康な生活を送れるよう貢献して参りたいと考えております。当施設の外観と正面エントランスは、さわやかなホワイトとグリーンを基調にし、施設にお越しいただいた皆様の気持ちよくお迎えします。また、施設内装はすべて木目調のインテリアを使用しやわらかな風合いとなっております。大きな窓から光が降り注ぐお部屋は、利用者の皆様に気持ちよくお過ごしいただける、心安らぐ空間となっております。開設から1年が経ちます。これからも地域の皆様に愛される施設を目指して成長していきたいと思っております。



居室



食堂



吹き抜け



社会医療法人 駿甲会 介護老人保健施設コミュニティーケア大井川

☎ 054-625-8560 ☎ 054-625-8561

【所在地】〒421-0216 静岡県焼津市相川577-1

●開設／平成30年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／50名

・【一般棟】個室4室 多床室(4人室)12室
・【認知棟】個室5室 多床室(2人室又は4人室)11室
・面会時間/9:00～19:00



介護報酬改定

事例発表

平成30年10月10日に、支援相談員部会がシズウエルで行われ、49施設58名の参加をいただきました。

平成30年度介護報酬改定で、在宅復帰・在宅療養支援が指標化され、老健が指標に基づいて評価され、点数が高い施設には介護報酬も評価される仕組みとなりました。10項目の指標には、在宅復帰・在宅療養支援だけでなく、重度化要件もあり、施設の特徴に合わせた点数配分がされています。

今回の支援相談員部会では、各施設の算定状況を把握した上で、点数獲得の為にどのような取り組みをされているのか、事例発表やグループワークを行いました。当協会でも、その他型から基本型以上へ移行できるよう勉強会を通じて働きかけがありました。今回の支援相談員部会では、在宅復帰の取り組みについて、「三方原ベテルホーム」鈴木

恵美様に事例発表をいただきました。状態が良くなって在宅へ帰られるケースや在宅でターミナルを迎えられるケースも知ることができ、在宅に帰る目的が多様化されている事を再認識しました。

グループワーク

グループワークでは、指標について困っている事を書き出し、他施設から意見をもらう形式ですすめていきました。なるべく近隣の施設になるようグループ分けをし、今後に繋げていけるよう配慮しました。

アンケートから「実践的な情報交換になつて良かった」「課題や取り組みについて悩みを共有できて良かった」「同じ職種の方の本音や実情が聞けて自分たちの意識改革になり有意義な時間だった」との意見が聞かれました。

同じ介護老人保健施設の職種が集まる機会が少ない中で、支援相談員部会が有意義な研修となるよう今後も取り組んで参ります。

部会報告 part 6

支援相談員部会

事例発表・グループワーク 介護報酬改定 指標に基づく評価と取り組み

支援相談員部会DATA

日時	平成30年10月10日
場所	シズウエル
担当	西山ウエルケア・安寧の郷

23

医療法人社団 薬紀会

みしゆくケアセンターわか葉

☎055-997-8181 📠055-997-8302

[所在地] 〒410-1107 裾野市御宿1475

●開設／平成15年11月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

24

医療法人社団 鵬友会

いかる野

☎0544-54-3200 📠0544-54-3201

[所在地] 〒418-0105 富士宮市原709

●開設／平成18年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

25

伊東市介護老人保健施設

みはらし

☎0557-37-3804 📠0557-37-6678

[所在地] 〒414-0055 伊東市岡187

●開設／平成18年4月 ●入所定員／125名 ●通所定員／30名

26

医療法人社団 辰五会

ふれあいの下田

☎0558-27-0700 📠0558-27-1117

[所在地] 〒415-0013 下田市柿崎32-10

●開設／平成18年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名

27

医療法人 啓仁会

いとうの杜

☎0557-35-4165 📠0557-35-4101

[所在地] 〒414-0002 伊東市湯川1288-9

●開設／平成18年11月 ●入所定員／137名 ●通所定員／60名

28

独立行政法人地域医療機能推進機構

三島総合病院附属介護老人保健施設

☎055-983-6050 📠055-983-6070

[所在地] 〒411-0801 三島市谷田字藤久保2276

●開設／平成13年5月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

29

医療法人社団 愛康会

あしたかケアセンター

☎055-967-3711 📠055-967-3727

[所在地] 〒410-0875 沼津市今沢字西畑372-5

●開設／平成20年9月 ●入所定員／75名 ●通所定員／40名

30

医療法人社団 喜生会

新富士ケアセンター

☎0545-36-2212 📠0545-36-2343

[所在地] 〒417-0801 富士市大淵字大峯389-1

●開設／平成22年8月 ●入所定員／104名

31

社会福祉法人 秀生会

富士中央ケアセンター

☎0545-72-3800 📠0545-72-3803

[所在地] 〒419-0201 富士市厚原372-1

●開設／平成25年3月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名

32

共立蒲原総合病院組合

芙蓉の丘

☎0545-56-2311 📠0545-56-2711

[所在地] 〒421-3306 富士市中之郷2500-1

●開設／平成13年6月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名

33

医療法人全心会 介護療養型老人保健施設

老健 つきがせ

☎0558-85-1800 📠0558-85-1801

[所在地] 〒410-3215 伊豆市ヶ瀬380-2

●開設／平成26年2月 ●入所定員／57名

34

医療法人社団 青虎会

介護老人保健施設 菜の花の丘

☎0550-76-5800 📠0550-76-5804

[所在地] 〒410-1313 駿東郡小山町竹之下321

●開設／平成27年9月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名



11

医療法人財団 百葉の会

ききょうの郷

☎0545-65-2000 📠0545-65-2001

[所在地] 〒416-0946 富士市五貫島175

●開設／平成9年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／70名

12

医療法人社団 志仁会

ラ・サンテふよう

☎055-989-7000 📠055-989-7005

[所在地] 〒411-0047 三島市佐野1205-3

●開設／平成9年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／80名

13

医療法人社団 望洋会

のぞみ

☎0557-48-0658 📠0557-48-0655

[所在地] 〒414-0001 伊東市宇佐美中里2405-2

●開設／平成11年2月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名

14

医療法人社団 仁信会

みゆきの苑

☎0544-28-3900 📠0544-25-3939

[所在地] 〒418-0005 富士宮市宮原337-4

●開設／平成11年4月 ●入所定員／109名 ●通所定員／70名

15

医療法人社団 凰林会

河津おもと苑

☎0558-35-7770 📠0558-35-7771

[所在地] 〒413-0502 賀茂郡河津町川津筏場1512-18

●開設／平成11年9月 ●入所定員／50名 ●通所定員／12名

16

医療法人社団 健育会

しおさい

☎0558-52-3000 📠0558-52-5577

[所在地] 〒410-3514 賀茂郡西伊豆町仁科243-1

●開設／平成12年3月 ●入所定員／50名 ●通所定員／30名

17

医療法人社団 静岡メディカルアライアンス

なぎさ園

☎0558-62-6800 📠0558-62-7255

[所在地] 〒415-0152 賀茂郡南伊豆町湊674

●開設／平成13年4月 ●入所定員／80名 ●通所定員／20名

18

医療法人社団 広見会

ひろみ

☎0545-21-6600 📠0545-21-1003

[所在地] 〒417-0801 富士市大淵39-1

●開設／平成14年4月 ●入所定員／90名 ●通所定員／40名

19

日本赤十字社静岡県支部

グリーنز修善寺

☎0558-74-3300 📠0558-74-3302

[所在地] 〒410-2413 伊豆市小立野100-2

●開設／平成14年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名

20

医療法人社団 勝友会

サン静浦

☎055-934-6000 📠055-934-8288

[所在地] 〒410-0106 沼津市志下344-1

●開設／平成14年2月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名

21

医療法人社団 愛康会

椎路の里

☎055-927-3900 📠055-927-3700

[所在地] 〒410-0302 沼津市東椎路32-1

●開設／平成15年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／100名

22

医療法人社団 敬寿会

夢の樹の郷

☎055-971-1000 📠055-971-1003

[所在地] 〒411-0902 駿東郡清水町玉川1183-1

●開設／平成15年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／50名



6

医療法人社団 敬寿会

安寧の郷

☎0558-76-8100 📠0558-76-8101

[所在地] 〒410-2315 伊豆の国市田京1258-44

●開設／平成6年5月 ●入所定員／150名

7

社会福祉法人 静和会

梅名の里

☎055-977-8686 📠055-977-8090

[所在地] 〒411-0816 三島市梅名578

●開設／平成6年8月 ●入所定員／100名 ●通所定員／66名

8

医療法人社団 聡誠会

長泉ケアセンター博寿園

☎055-989-1121 📠055-988-6565

[所在地] 〒411-0945 駿東郡長泉町本宿418-1

●開設／平成7年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

9

医療法人社団 真養会

おおひら

☎055-934-1165 📠055-932-7934

[所在地] 〒410-0821 沼津市大平1117-1

●開設／平成7年5月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

10

医療法人社団 青虎会

あすなろ

☎0550-88-0007 📠0550-88-1101

[所在地] 〒412-0045 御殿場市川島田1076-2

●開設／平成7年5月 ●入所定員／199名 ●通所定員／120名



1

医療法人社団 鵬友会

リバブルケア

☎0544-54-1800 📠0544-54-0522

[所在地] 〒418-0105 富士宮市原682

●開設／平成2年4月 ●入所定員／72名 ●通所定員／40名

2

医療法人社団 愛康会

タカネ園

☎055-967-8800 📠055-967-3600

[所在地] 〒410-0305 沼津市鳥谷611-1

●開設／平成3年8月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名

3

医療法人社団 康生会

Kanon

☎0550-83-3567 📠0550-82-3887

[所在地] 〒412-0043 御殿場市新橋1175-1

●開設／平成4年5月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名

4

医療法人社団 喜生会

ヒューマンライフ 富士

☎0545-36-0511 📠0545-36-2677

[所在地] 〒417-0801 富士市大淵3901-1

●開設／平成5年7月 ●入所定員／195名 ●通所定員／70名

5

一般財団法人富士心身リハビリテーション研究所

富士ケアセンター

☎0544-22-3111 📠0544-22-3907

[所在地] 〒418-0035 富士宮市星山1129

●開設／平成6年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名



会員施設一覧 東部地区

静岡県東部

24 | 老健しずおか

老健しずおか | 23

会員施設一覧 中部地区

23

医療法人社団聖雄会
かりん

☎054-268-6666 📠054-268-6660

[所在地] 〒421-0105 静岡市駿河区宇津ノ谷1-1
●開設／平成17年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

24

医療法人社団 宝徳会
ケアセンター池田の街

☎054-267-2211 📠054-267-2700

[所在地] 〒422-8005 静岡市駿河区池田185-1
●開設／平成17年4月 ●入所定員／110名 ●通所定員／60名

25

医療法人財団 百葉の会
鶴舞乃城

☎054-361-1234 📠054-361-0800

[所在地] 〒424-0114 静岡市清水区庵原町3158
●開設／平成19年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／70名

26

医療法人 志太会
ユニケア岡部

☎054-667-5555 📠054-667-3623

[所在地] 〒421-1131 藤枝市岡部町内谷1473-3
●開設／平成15年9月 ●入所定員／100名 ●通所定員／50名

27

医療法人社団アール・アンド・オー
エスコートタウン静清

☎054-267-1010 📠054-267-1060

[所在地] 〒420-0821 静岡市葵区袖木90-1
●開設／平成19年9月 ●入所定員／120名 ●通所定員／70名

28

医療法人財団 百葉の会
星のしずく

☎054-200-5555 📠054-200-5558

[所在地] 〒420-0805 静岡市葵区城北87
●開設／平成24年5月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

29

医療法人 杏林会
リハビリパーク駿府

☎054-266-3611 📠054-266-3613

[所在地] 〒420-0873 静岡市葵区藤上8-6
●開設／平成24年11月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名

30

医療法人社団 健寿会
もくれん

☎054-366-5101 📠054-366-5102

[所在地] 〒424-0104 静岡市清水区草ヶ谷字クツツウヶ谷624-22
●開設／平成22年4月 ●入所定員／158名 ●通所定員／0名

31

医療法人 沖縄徳州会
あじさい

☎0548-23-0231 📠0548-23-0235

[所在地] 〒421-0421 牧之原市細江3208-1
●開設／平成26年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名

32

医療法人 沖縄徳州会
静岡徳洲苑

☎054-277-3300 📠054-277-3305

[所在地] 〒421-1221 静岡市葵区牧ヶ谷811-15
●開設／平成24年6月 ●入所定員／100名 ●通所定員／18名

33

医療法人 杏林会
リハビリパーク清水

☎054-367-0101 📠054-367-0115

[所在地] 〒424-0005 静岡市清水区石川1135
●開設／平成28年10月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名

34

社会医療法人 駿甲会
コミュニティケア大井川

☎054-625-8560 📠054-625-8561

[所在地] 〒421-0216 静岡県焼津市相川1577-1
●開設／平成30年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／50名

11

医療法人社団 聖穰会
グリーンヒルズ藤枝

☎054-639-1234 📠054-639-1255

[所在地] 〒426-0133 藤枝市宮原420-1
●開設／平成10年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／75名

12

医療法人社団 共生会
エコトープ

☎0547-45-0111 📠0547-45-0112

[所在地] 〒428-0007 島田市島534-1
●開設／平成10年10月 ●入所定員／150名 ●通所定員／40名

13

医療法人社団 健社会
アポロン

☎0547-34-2000 📠0547-34-2358

[所在地] 〒427-0047 島田市中溝町1714-1
●開設／平成11年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／45名

14

医療法人社団 博恵会
アリス草薙

☎054-347-6511 📠054-347-6565

[所在地] 〒424-0886 静岡市清水区草薙424-7
●開設／平成11年11月 ●入所定員／100名 ●通所定員／105名

15

医療法人社団 秀慈会
萩の里

☎054-236-1155 📠054-236-1177

[所在地] 〒422-8018 静岡市駿河区西大谷12-5
●開設／平成12年3月 ●入所定員／100名 ●通所定員／85名

16

医療法人社団 あけぼの
はるかぜ

☎0548-52-7771 📠0548-52-7781

[所在地] 〒421-0514 牧之原市菅ヶ谷1240-1
●開設／平成12年3月 ●入所定員／80名 ●通所定員／40名

17

静岡県厚生農業協同組合連合会
きよみの里

☎054-369-7700 📠054-360-4100

[所在地] 〒420-0203 静岡市清水区興津東町1829
●開設／平成12年6月 ●入所定員／100名 ●通所定員／55名

18

医療法人社団 静寿会
葵の里

☎054-257-2281 📠054-268-5221

[所在地] 〒421-0135 静岡市駿河区小坂376-1
●開設／平成12年9月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

19

医療法人社団 松笑会
あみ

☎054-206-1777 📠054-206-1717

[所在地] 〒421-2109 静岡市葵区福田ヶ谷73-2
●開設／平成14年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／50名

20

社会医療法人 駿甲会
コミュニティケア吉田

☎0548-34-5577 📠0548-34-5578

[所在地] 〒421-0302 榛原郡吉田町川尻1700-1
●開設／平成15年3月 ●入所定員／100名 ●通所定員／50名

21

医療法人社団平成会
マインド

☎054-643-3601 📠054-643-3602

[所在地] 〒426-0075 藤枝市瀬戸新屋487-2
●開設／平成15年11月 ●入所定員／150名 ●通所定員／40名

22

医療法人社団凜和会
フォレストア藤枝

☎054-647-3833 📠054-647-3831

[所在地] 〒426-0033 藤枝市小石川町2-8-13
●開設／平成15年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／53名

6

医療法人社団 宏整会
サンライズ大浜

☎054-282-2839 📠054-281-8245

[所在地] 〒422-8045 静岡市駿河区西島528
●開設／平成8年5月 ●入所定員／121名 ●通所定員／20名

7

社会福祉法人 楽寿会
楽寿

☎054-296-1112 📠054-296-1313

[所在地] 〒421-2115 静岡市葵区与左衛門新田98-11
●開設／平成8年10月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名

8

医療法人社団 博慈会
こみに

☎054-209-7000 📠054-209-7007

[所在地] 〒420-0963 静岡市葵区赤松8-16
●開設／平成9年4月 ●入所定員／186名 ●通所定員／75名

9

医療法人社団 正心会
ケアセンターゆうゆう

☎054-625-0321 📠054-625-0322

[所在地] 〒425-0052 焼津市田尻4
●開設／平成9年4月 ●入所定員／97名 ●通所定員／100名

10

医療法人社団 平成会
カリタス・メンテ

☎054-643-1266 📠054-643-1289

[所在地] 〒426-8662 藤枝市水上123-1
●開設／平成9年5月 ●入所定員／50名 ●通所定員／20名

1

医療法人社団 恒仁会
ケアセンター瀬名

☎054-264-2221 📠054-264-8100

[所在地] 〒420-0903 静岡市葵区長尾39-5
●開設／平成元年6月 ●入所定員／200名 ●通所定員／70名

2

医療法人社団 清仁会
あかつきの園

☎054-334-5533 📠054-334-1121

[所在地] 〒424-0917 静岡市清水区駒越2883-1
●開設／平成3年9月 ●入所定員／100名 ●通所定員／10名

3

医療法人社団 清秀会
ケア・センター ひまわり

☎054-336-3033 📠054-336-3035

[所在地] 〒424-0934 静岡市清水区村松原1-2-34
●開設／平成5年9月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名

4

医療法人社団 綾和会
焼津ケアセンター

☎054-623-8111 📠054-623-8116

[所在地] 〒425-0062 焼津市中根新田1315
●開設／平成7年3月 ●入所定員／150名 ●通所定員／63名

5

社会医療法人 駿甲会
コミュニティケア高草

☎054-627-5588 📠054-627-9988

[所在地] 〒425-0005 焼津市方ノ上358-1
●開設／平成8年4月 ●入所定員／84名 ●通所定員／115名

29 医療法人社団 藤友五幸会
五洋の里
☎0538-67-1755 📠0538-67-1756
[所在地] 〒438-0234 磐田市掛塚3190-1
●開設／平成18年7月 ●入所定員／90名 ●通所定員／40名



30 医療法人社団 拓己会
長鶴の郷
☎053-423-2700 📠053-423-2711
[所在地] 〒435-0031 浜松市東区長鶴町290
●開設／平成19年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／45名



31 医療法人社団 敬徳会
あらたま
☎053-582-3211 📠053-582-3333
[所在地] 〒434-0004 浜松市浜北区宮口3152
●開設／平成18年9月 ●入所定員／80名 ●通所定員／20名



32 医療法人社団 恵成会
えいせい掛川介護老人保健施設
☎0537-20-1611 📠0537-29-1116
[所在地] 〒436-0342 掛川市上西郷8021
●開設／平成19年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



33 医療法人社団 早友会
クロヤナギ介護老人保健施設
☎053-524-1000 📠053-524-1152
[所在地] 〒431-1404 浜松市北区三ヶ日町宇志34-1
●開設／平成21年8月 ●入所定員／19名 ●通所定員／40名



34 医療法人社団 白梅会
白梅県居ケアホーム
☎053-458-2100 📠053-458-2101
[所在地] 〒432-0836 浜松市中区東伊場2-14-35
●開設／平成24年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



35 医療法人社団 光久会
はるのケアセンター
☎053-989-1500 📠053-989-1502
[所在地] 〒437-0605 浜松市天竜区春野町気田776-5
●開設／平成24年4月 ●入所定員／60名 ●通所定員／30名



36 医療法人社団 あすま会
八幡の森
☎053-476-1156 📠053-401-0011
[所在地] 〒430-0918 浜松市中区八幡町181
●開設／平成24年11月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



37 医療法人社団 和恵会
みずほケアセンター
☎053-414-2220 📠053-414-2225
[所在地] 〒433-8118 浜松市中区高丘西2-32-36
●開設／平成25年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名



38 医療法人社団 友成医院
介護老人保健施設 きらりの森
☎053-589-3331 📠053-589-3332
[所在地] 〒434-0046 浜松市浜北区染地台3-29-20
●開設／平成26年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名



39 医療法人社団 心
介護老人保健施設 坂の上ろうけん曳馬野
☎053-416-2015 📠053-416-2025
[所在地] 〒433-8123 浜松市中区幸4丁目36-3
●開設／平成27年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名



40 医療法人社団 綾和会
介護老人保健施設 桔梗の丘
☎0537-23-7110 📠0537-23-7116
[所在地] 〒436-0030 掛川市杉谷南1丁目1-1
●開設／平成27年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名



17 医療法人 浜名会
まんさくの里
☎053-572-3911 📠053-572-3939
[所在地] 〒431-0422 湖西市岡崎1353-1
●開設／平成13年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名



18 御前崎市
はまおか
☎0537-86-8822 📠0537-85-7436
[所在地] 〒437-1688 御前崎市池新田2070
●開設／平成13年5月 ●入所定員／50名 ●通所定員／45名



19 医療法人社団 藤花会
花平ケアセンター
☎053-542-4187 📠053-542-4087
[所在地] 〒431-2211 浜松市北区引佐町花平708
●開設／平成14年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



20 医療法人社団 和恵会
白脇ケアセンター
☎053-444-3131 📠053-444-3132
[所在地] 〒430-0846 浜松市南区白羽町1424
●開設／平成14年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／70名



21 医療法人社団 東医会
みかたはら介護老人保健施設
☎053-438-5886 📠053-438-5887
[所在地] 〒433-8105 浜松市北区三方原町675-6
●開設／平成19年2月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



22 医療法人社団 山川会
ケアセンター芳川
☎053-426-0003 📠053-426-0004
[所在地] 〒430-0838 浜松市南区東野町24
●開設／平成15年10月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名



23 医療法人社団 緑生会
天王介護老人保健施設
☎053-423-1070 📠053-423-1072
[所在地] 〒435-0051 浜松市東区市野町2495
●開設／平成19年8月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



24 医療法人社団 あおば会
あおばケアガーデン
☎0537-48-0002 📠0537-48-0024
[所在地] 〒437-1302 掛川市大淵4345
●開設／平成16年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名



25 医療法人社団 緑風会
風の杜
☎0538-85-1121 📠0538-85-1171
[所在地] 〒437-0214 周智郡森町草ヶ谷104-1
●開設／平成17年4月 ●入所定員／80名 ●通所定員／43名



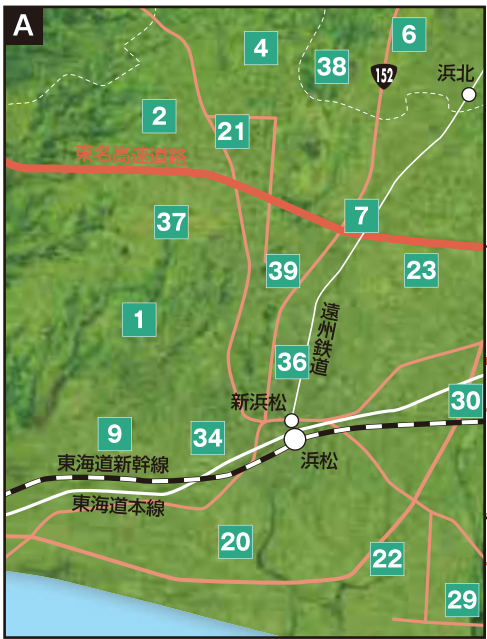
26 医療法人社団 晴和会
さわだの庄
☎0537-35-8889 📠0537-35-8880
[所在地] 〒439-0037 菊川市西方5511
●開設／平成17年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／70名



27 医療法人社団 白梅会
白梅豊岡ケアホーム
☎0539-62-1601 📠0539-62-1606
[所在地] 〒438-0126 磐田市下神増183-1
●開設／平成18年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名



28 医療法人社団 紅紫会
ナーシングホームオンフルール
☎0538-45-0080 📠0538-45-0081
[所在地] 〒437-0023 袋井市高尾1439-3
●開設／平成18年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名



会員施設一覧 西部地区

9 医療法人社団 和恵会
入野ケアセンター
☎053-440-1200 📠053-440-1201
[所在地] 〒432-8061 浜松市西区入野町6417
●開設／平成7年10月 ●入所定員／150名 ●通所定員／80名



10 医療法人社団 木野記念会
於保老健センター
☎0538-58-2550 📠0538-58-2552
[所在地] 〒437-1216 磐田市一色26
●開設／平成8年4月 ●入所定員／80名 ●通所定員／20名



11 医療法人社団 川口会
エバーグリーン掛川
☎0537-21-0550 📠0537-21-0551
[所在地] 〒436-0043 掛川市大池680
●開設／平成8年5月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



12 社会福祉法人 天竜厚生会
さいわい
☎053-583-1156 📠053-583-1258
[所在地] 〒431-3492 浜松市天竜区渡ヶ島221
●開設／平成9年6月 ●入所定員／127名 ●通所定員／55名



13 医療法人社団 藤友五幸会
おおふじ五幸ホーム
☎0538-38-5511 📠0538-38-5656
[所在地] 〒438-0002 磐田市大久保508-3
●開設／平成10年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名



14 医療法人社団 愛慈会
さくらの苑
☎0538-33-3800 📠0538-33-3802
[所在地] 〒438-0074 磐田市二之宮字仙水1162
●開設／平成10年5月 ●入所定員／100名 ●通所定員／39名



15 医療法人社団 学修会
神子の園
☎0537-20-0080 📠0537-20-0081
[所在地] 〒436-0084 掛川市逆川100
●開設／平成11年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／40名



16 医療法人社団 清怜会
袋井ケアセンター
☎0538-49-4911 📠0538-49-4912
[所在地] 〒437-0003 袋井市豊岡933-1
●開設／平成11年7月 ●入所定員／100名 ●通所定員／20名



1 医療法人社団 一穂会
西山ウエルケア
☎053-485-5500 📠053-485-6130
[所在地] 〒432-8001 浜松市西区西山町411-2
●開設／平成元年3月 ●入所定員／148名 ●通所定員／64名



2 社会福祉法人 聖隷福祉事業団
三方原ベテルホーム
☎053-436-6600 📠053-439-0055
[所在地] 〒431-1304 浜松市北区細江町中川7421-1
●開設／平成3年4月 ●入所定員／150名 ●通所定員／50名



3 医療法人社団 早友会
みっかび東介護老人保健施設
☎053-524-2000 📠053-524-1152
[所在地] 〒431-1404 浜松市北区三ヶ日町宇志34-1
●開設／平成4年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／30名



4 医療法人社団 長啓会
都ケアセンター
☎053-428-3331 📠053-428-3332
[所在地] 〒431-2102 浜松市北区都田町7555-47
●開設／平成5年3月 ●入所定員／405名 ●通所定員／20名



5 医療法人社団 恵成会
なかよし
☎0538-34-6543 📠0538-37-7498
[所在地] 〒438-0838 磐田市小立野135-1
●開設／平成6年3月 ●入所定員／50名 ●通所定員／40名



6 医療法人社団 明徳会
エーデルワイス
☎053-585-1500 📠053-585-1501
[所在地] 〒434-0041 浜松市浜北区平口2405
●開設／平成6年9月 ●入所定員／150名 ●通所定員／60名



7 医療法人社団 岡崎会
ハイマート有玉
☎053-434-7877 📠053-435-4987
[所在地] 〒431-3122 浜松市東区有玉南町1436
●開設／平成7年4月 ●入所定員／100名 ●通所定員／60名



8 医療法人社団 白梅会
白梅ケアホーム
☎053-485-7711 📠053-485-7712
[所在地] 〒431-1112 浜松市西区大人見町3011-1
●開設／平成7年4月 ●入所定員／150名 ●通所定員／40名



第15回 東海・北陸ブロック老健大会 **愛知**

老健から発信する地域づくり
～いつまでもここで暮らすために～

2019年**5月16日(木)・17日(金)**

会場

日本特殊陶業市民会館（開会式・基調講演）
名古屋市中区金山一丁目5番1号 TEL.052-331-2141

ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋
名古屋市中区金山町1-1-1 TEL.052-683-4111（分科会・記念講演・閉会式）

主催：東海・北陸ブロック老人保健施設連絡会 後援：公益社団法人 全国介護老人保健施設協会
運営：一般社団法人 愛知県老人保健施設協会 大会長：一般社団法人 愛知県老人保健施設協会 会長 岡田 温



INDEX

老健しずおか

静岡県老人保健施設協会機関誌 第23号

- 1 ご挨拶／静岡県老人保健施設協会 会長 猿原 孝行
2 ご挨拶／静岡県健康福祉部福祉長寿局 福祉指導課長 黒岩 康

3 TOPIC 1 診療報酬／介護報酬同時改定 評価・ポイント においての

- 6 第30回全国介護老人保健施設記念大会 別府大分 予告

7 TOPIC 2 職員研究発表会

9 TOPIC 3 第29回全国老人保健施設大会 in 埼玉

部会報告

- 11 看護・介護部会
13 リハビリ部会
15 通所リハビリ部会
17 防災部会
19 栄養部会
21 支援相談員部会

会員施設紹介

- 22 新規会員施設紹介
東部地区 中部地区 西部地区
29 事業報告



御前崎灯台

事業報告

平成30年度

静岡県老人保健施設協会 各職域部会・研修会開催状況

月 日	研修名	内 容	備 考
5月31日(木)	平成30年度 定期総会	平成29年度事業報告、歳入歳出報告、決算報告了承 平成30年度事業計画案、歳入、歳出予算案	もくせい会館 富士ホール
5月24日(木) 5月25日(金)	第14回 東海・北陸ブロック 老健大会 in 福井	テーマ「地域から期待される老健へ」 ～知ってもらおう老健のチカラ～ 6演題 参加者：37名	フェニックスプラザ (福井県)
8月30日(木)	東海・北陸ブロック 共催研修会	「平成30年度介護報酬改定（栄養関係）の概要と 管理栄養士・栄養士に期待される役割」 参加者：7名	ウインク愛知
9月21日(金)	全体研修会	「組織力向上研修」「事故発生時の対応」 参加者：80名	もくせい会館 富士ホール
10月7日(日)	東海・北陸ブロック共催 研修会	「介護職新人基礎研修会」 ～介護の基本・演習で体感しよう～ 参加者：2名	ウインク愛知
10月17日(水) 10月19日(金)	第29回 全国老人保健施設大会 in 埼玉	テーマ「彩ろう！豊かな高齢社会を」 29演題 参加者：101名	ソニックシティ
11月13日(火)	職員研究発表会	研究発表 4演題 参加者：90名	もくせい会館 富士ホール
11月29日(木) 11月30日(金)	全体研修会 一泊実務者連絡会	全体研修会 「平成30年診療報酬・介護報酬の同時改定において 介護老人保健施設の運営（3年後の改定に向けて）」 (株)ASK 梓診療報酬研究所 中林 梓 先生 平成30年度 事業中間報告	K K R ホテル 熱海
12月4日(火)	看護・介護部会研修会	介護老人保健施設での感染症対策について	梅名の里 坂の上ろうけん曳馬野
9月12日(水) 2月13日(水)	リハビリ部会研修会	第1回 事例発表、グループワーク 第2回 講義：トラスト生涯学習センター所長清水英之先生	ゆうゆう おひら
11月20日(火)	通所リハビリ部会研修会	事例発表、グループワーク	萩の里 みゆきの苑
10月10日(水)	支援相談員部会研修会	事例発表、グループワーク	西山ウエルケア 安寧の郷
11月22日(木)	栄養部会研修会	排便コントロールについて 嚥下調整食作りにおけるゲル化剤のいろは	ケアセンター瀬名 三方原ベテルホーム
10月30日(火)	防災部会	災害対策・取り組み事例発表	こみに ユニケア岡部
3月発行	機関誌編集会議	「老健しずおか」第23号編集	ヒューマンライブ富士 ひろみ